

韓国 漢陽大学校大学院 BK21FOUR 日本学教育研究チームとの 国際学術大会を開催

2024年2月22日（木）、立命館大学東アジア平和協力研究センターでは漢陽大学校大学院日本言語文化学科BK21FOUR「地域文化の創出と人文活動方法論を構築するための日本学研究チーム」との国際学術大会「地域文化の理解と日本学研究—東アジアにおける安保環境の変化と対応—」を実施いたしました。学術研究大会では日韓を中心とした大学院生による日本を中心とした東アジア地域の政治、経済、安全保障、言語、文化など多様な分野に関する研究報告が行われました。

立命館大学東アジア平和協力研究センターでは若手研究者の育成に力を入れ、若手研究者による東アジアに関する研究を発信しております。

■詳細

日時 2024年2月22日（木） 9:50～17:30

会場 立命館大学衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

主催 漢陽大学大学院日本言語文化研究学科BK21FOUR「地域文化の創出と人文活動方法論を構築するための日本学研究チーム」

共催 立命館大学東アジア平和協力研究センター

■参加者

《立命館大学》

中戸 祐夫（東アジア平和協力研究センター・センター長）

馬場 一輝（東アジア平和協力研究センター・RA）

徐 聖鉉（国際関係研究科・博士課程後期課程）

辻田 友規（国際関係研究科・博士課程前期課程）

松澤 圭祐（国際関係研究科・博士課程前期課程）

Zykova Sofia（国際関係研究科・博士課程前期課程）

《学外参加者》

金 志英（漢陽大学校）

佐藤 太久磨（漢陽大学校）

李 俊榮（漢陽大学校）

沈 慧仁（漢陽大学校）

ブン センリン（漢陽大学校）

金 崢（漢陽大学校）

パク ソンミン（漢陽大学校）

金 永彩（漢陽大学校）

朴 主言（漢陽大学校）

浅羽 祐樹（同志社大学）（東アジア平和協力研究センター・副センター長）

山田 歩（滋賀県立大学）

Hsueh Yu-Ting（國立政治大學）

李 文心（デラウェア大学）



国際学術大会参加者




東アジア平和協力研究センター
Center for East Asian Peace and Cooperation Studies, Ritsumeikan University




漢陽大学校 立命館大学 国際学術大会

地域文化の理解と日本学研究

—東アジアにおける安保環境の変化と対応—

日時 2024年 2月22日 (木) 9:50~17:20
場所 立命館大学衣笠キャンパス
平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

言語 日本語

プログラム

開会の挨拶	金 志英 (漢陽大学校)
基調講演	中戸 祐夫 (立命館大学)

第1セッション (10:40~12:30) 司会 金 志英 (漢陽大学校)

沈 慧仁 (漢陽大学校)	日本の防衛力増強及び防衛産業の復活の試みに対する再考察
徐 聖鉉 (立命館大学)	なぜ日韓の議会は政治主体の多極化を実現できなかったのか—日韓民主主義の比較から
Hsueh Yu-Ting (國立政治大學)	Can a 'Silicon Shield' Protect Taiwan? An Offensive Realist Perspective
李 文心 (デラウェア大学)	冷戦終結後の日本の外交力と地域安保協力枠組みの構築におけるリーダーシップ

ディスカッション 佐藤 太久磨 (漢陽大学校)

第2セッション (13:30~15:20) 司会 山田 歩 (滋賀県立大学)

ブン センリン (漢陽大学校)	日本の対中輸出規制について
松澤 圭祐 (立命館大学)	バイデン政権の外交政策
金 暉 (漢陽大学校)	日本の経済安全保障と日中間一輸出規制を中心に
張 惠林 (立命館大学)	天安門事件における日中間関係、日本外交と中国の改革開放路線を中心に

ディスカッション 浅羽 祐樹 (同志社大学)

第3セッション (15:30~17:50) 司会 朴 奎泰 (漢陽大学校)

バク ソンミン (漢陽大学校)	世界における韓国と日本の文学の位置—出版市場を中心に
金 永彩 (漢陽大学校)	アニメによる日本の戦争記憶の再構成—『宇宙戦艦ヤマト』を事例として
朴 主言 (漢陽大学校)	学習行動を促進する内在的要因の探索的検討—動機的信念、メタ認知、自己統制力が学習時間に及ぼす影響
Zykova Sofia (立命館大学)	日韓関係における認識の違い、又人的交流の役割について (第二次安倍内閣を中心に)

ディスカッション 李 俊榮 (漢陽大学校)

主催：漢陽大学大学院日本語文化学科BK21FOUR「地域文化の創出と人文活動方法論を構築するための日本学研究チーム」
共催：立命館大学東アジア平和協力研究センター (CEAPCS)
問合せ：ceapcs@st.ritsumei.ac.jp (CEAPCS)

한국 한양대학교대학원 일본언어문화학과 국제학술대회 개최

리츠메이칸대학동아시아평화협력연구센터는 2024년 2월 22일(목) 한양대학교 BK21FOUR 일본학 교육연구팀과 국제학술대회 '지역문화의 이해와 일본학연구 -동아시아 내 안보환경 변화와 대응-'을 개최하였다.

학술대회에서는 일본을 중심으로 동아시아 지역의 정치, 경제, 안보, 언어, 문화 등 다양한 분야를 제목으로 한국, 일본 등 각 나라 대학원생이 연구보고를 하였다.

리츠메이칸대학동아시아평화연구센터에서는 젊은 세대연구자 육성을 추진하여 젊은 연구자의 동아시아에 관한 연구를 발신합니다.

■ 행사정보

날짜/시간 2024년 2월 22일(목) 9:50~17:30

장소 리츠메이칸대학 기누가사캠퍼스 하리이키이치로기념도서관 회의실

주최 한양대학교 BK21FOUR 일본학교육연구팀

공최 리츠메이칸대학 동아시아평화협력연구센터

■ 참석자

<리츠메이칸대학>

나카토 사치오 (동아시아평화협력연구센터 센터장)

바바 가즈키 (동아시아평화협력연구센터 RA)

서성현 (국제관계연구과 박사과정)

츠지타 토모키 (국제관계연구과 석사과정)

마츠자와 케이유우 (국제관계연구과 석사과정)

Zykova Sofia (국제관계연구과 석사과정)

<학외 참석자>

김지영 (한양대학교)

사토 타쿠마 (한양대학교)

이준영 (한양대학교)

심해인 (한양대학교)

Wen Xuan-Lin

Jin Zheng

박성민 (한양대학교)

김영체 (한양대학교)

박주언 (한양대학교)

아사바 유키 (도시야대학) (동아시아평화협력연구센터 북센터장)

야마다 아유미 (시가현립대학)

Hsueh Yu-Ting (국립정치대학)

Lee Wen-Sin (Drawer University)



참석자 전체 사진

地域文化の理解と日本学研究

—東アジアにおける安保環境の変化と対応—

日時 2024年 2月22日 (木) 9:50-17:20

場所 立命館大学衣笠キャンパス

平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

言語 日本語

プログラム

開会の挨拶 金 志英 (漢陽大学)

基調講演 中戸 祐夫 (立命館大学)

第1セッション (10:40~12:30)

司会 金 志英 (漢陽大学)

- 沈 慧仁 (漢陽大学) 日本の防衛力増強及び防衛産業の復活の試みに対する再考察
徐 聖鉉 (立命館大学) なぜ日韓の議会は政治主体の多極化を実現できなかったのか—日韓民主主義の比較から
Hsueh Yu-Ting (國立政治大學) Can a 'Silicon Shield' Protect Taiwan? An Offensive Realist Perspective
李 文心 (テラウェア大学) 冷戦終結後の日本の外交力と地域安保協力枠組みの構築におけるリーダーシップ
ディスカッション 佐藤 太久磨 (漢陽大学)

第2セッション (13:30~15:20)

司会 山田 歩 (滋賀県立大学)

- ブン センリン (漢陽大学) 日本の対中輸出規制について
松澤 圭祐 (立命館大学) バイデン政権の外交政策
金 輝 (漢陽大学) 日本の経済安全保障と日中関係—輸出規制を中心に
張 恵林 (立命館大学) 天安門事件における日中関係、日本外交と中国の改革開放路線を中心に
ディスカッション 浅羽 祐樹 (同志社大学)

第3セッション (15:30~17:50)

司会 朴 奎泰 (漢陽大学)

- パク ソンミン (漢陽大学) 世界における韓国と日本の文学の位置—出版市場を中心に
金 永彩 (漢陽大学) アニメによる日本の戦争記憶の再構成—『宇宙戦艦ヤマト』を事例として
朴 圭言 (漢陽大学) 学習行動を促進する内在的要因の探索的検討—動機的信念、メタ認知、自己統制力が学習時間に及ぼす影響
Zykova Sofia (立命館大学) 日韓関係における認識の違い、又人的交流の役割について (第二次安倍内閣を中心に)
ディスカッション 李 俊榮 (漢陽大学)